

本講座における臨床研究について

テーマ「細胞傷害性 T/NK 細胞を起源とする EBV 関連高悪性度リンパ腫の臨床病理学的解析」

本講座ではこのたび上記テーマ（申請者：琉球大学大学院医学研究科細胞病理学 教授 加留部謙之輔）の臨床研究を行うこととなりました。リンパ系悪性腫瘍(いわゆる悪性リンパ腫)は血液のがんの中でも最も頻度が高いものであり、沖縄県においても毎年多数の方が発症されています。リンパ系悪性腫瘍は何十もの細かい分類(亜型といいます)に分かれますが、その亜型によって、治りやすいものと治りにくいものがあります。その中で EBV 関連リンパ腫はウイルス関連がんとして病態に注目が集まっています。EBV 関連リンパ腫は、B 細胞型、T 細胞型、NK 細胞型に分かれます。そのうち、T/NK 細胞型は基本的に小児に多く認められる疾患なのですが、成人発症例も散発的に確認され、またその病態はほとんど分かっていません。

今回当講座では、成人発症例の EBV 関連高悪性度 T 細胞性腫瘍をターゲットにして、その臨床病理学的特徴の把握および診断基準を明らかにするべく、研究を行います。臨床経過の特徴や、遺伝子異常などの腫瘍細胞の性質が症状や治療の効果にどれほどの影響を与えるかがわかれば、将来的に本疾患の患者さんの治療や診断に大きく貢献できると考えられます。

この研究は、患者さんから診断のために採取された検体の”残り”を活用します。このように、この研究のためだけに新たに組織を採取し直すことはありませんので、患者さんの負担が増えることはありません。今回の研究では、臨床経過と共に、T/NK 細胞性リンパ腫、EBV 関連リンパ腫に関連する分子に注目して解析しますが、研究の過程で興味深い知見が得られた場合は、さらに別の視点から解析を追加する可能性があります。これを検体の二次利用と言いますが、この場合は、その二次利用を用いた研究計画を琉球大学の「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」で改めて審議して、承認を受けた後に進めます。

保存する検体には保存のための別の番号が付けられます。その検体番号と病院名、施設内 ID 番号、病型、性別とが連結可能な形で、管理台帳ファイルに管理・保管されます。管理台帳ファイルは当院内でパスワードをかけたコンピューター内で保管され、第三者が患者さんを特定することはできません。この研究に参加された方々の年齢や性別、検査結果などは学会や論文で公表・使用される

ことがあります。個人が特定されることはありません。また、この研究の記録が適切に残されていることなどを確認するために、当院の関係者が診療記録を見せていただき、内容の照合を行うことがあります。

本研究は琉球大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会の承認を受けています。使用に同意されない場合は自由に使用の拒否ができますし、それによって診療の内容が影響することは一切ありません。

ご不明な点は、以下にお問い合わせください。

*(琉球大学大学院医学研究科細胞病理学
教授 加留部 謙之輔 (かるべ けんのすけ)
TEL: 098-895-1123
FAX: 098-895-1407)

*()内は各研究協力施設のホームページの場合はそれぞれの代表者の連絡先になる。